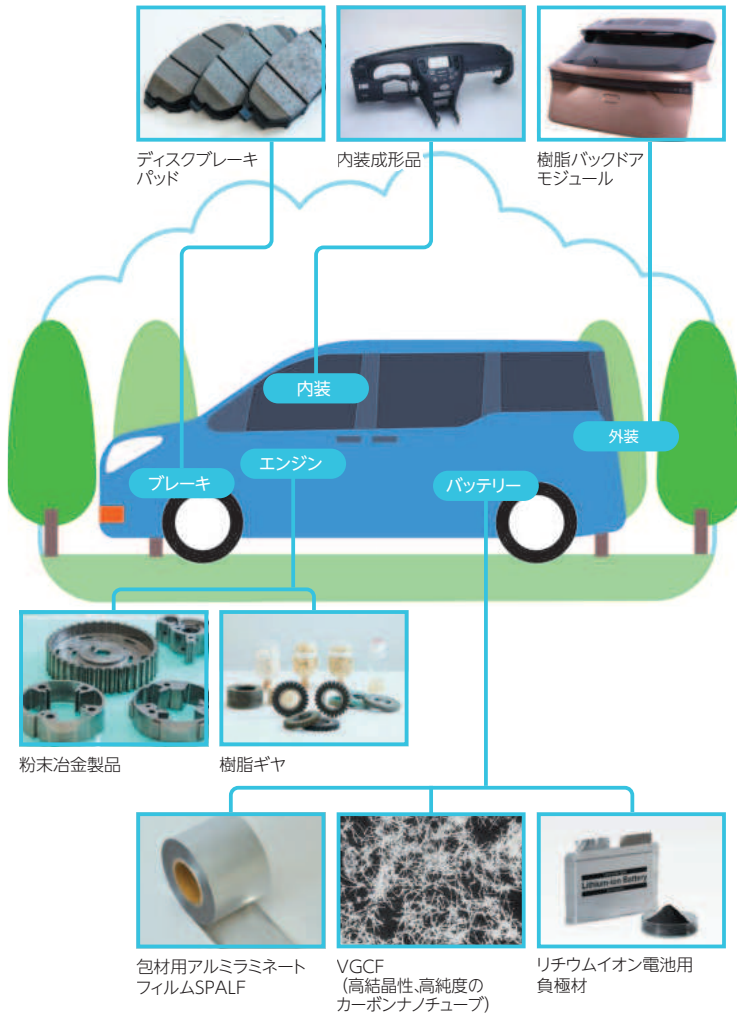


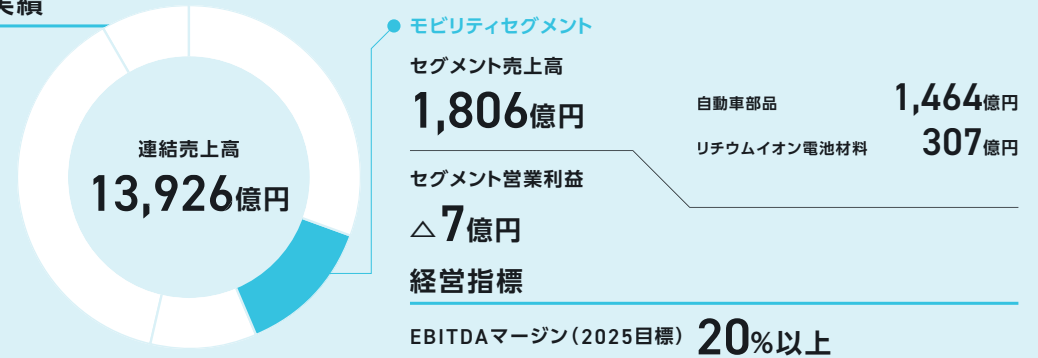
事業戦略

モビリティセグメント

暮らしと製品の関わり



2022年実績



長期ビジョン実現に向けた戦略

現在、モビリティ事業においては、CASE*¹、特にxEV化の進展に伴う技術ニーズの高まりを事業機会と捉え、成長戦略として当社の軽量化、電動化、熱制御の技術を活かした事業を展開し、成長を図っていきます。一方で今後市場がシュリンクしていくICE*²車向けの事業については、生産能力の最適化や固定費対策などにより強靱な収益基盤の構築を図ります。このように事業ポートフォリオをマネジメントし、EBITDAマージン20%超達成を目指します。

	2022年実績	2023年計画	ありたい姿(2030年)
自動車部品	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車生産台数は半導体供給不足による減産の影響を受け、当初計画から業績下ぶれ ●新車種向けバックドアモジュールや銅フリーディスクパッドを計12車種で立ち上げ ●セラミック事業*³、断熱材事業の切り離し 	<ul style="list-style-type: none"> ●半導体供給不足の影響は継続するものの、年後半には回復基調へ戻ると予測、増収増益を計画 ●新車種向け発泡成形品や新用途向け樹脂ギヤ、銅フリーディスクパッドなどを立ち上げ。原材料費やエネルギーコストの上昇の価格転嫁を推進 ●構造改革により強靱な収益基盤の確立を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●ニッチ市場をターゲットに、成長事業に積極投資することで、トップシェアを実現 ●コア成長事業でEBITDAマージン20%以上の達成を目指す
リチウムイオン電池材料	<ul style="list-style-type: none"> ●BEV向け負極材の採用車種拡大と新製品開発 ●アルミラミネートフィルム(SPALF)新規案件獲得、導電助剤(VGCF)の生産能力拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●急速充電性能など次世代EV向け技術ニーズに対応する負極材の新製品の開発 ●SPALFのハイエンドモデル認定取得、VGCFの着実な能力増強と強靱なサプライチェーン構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●CASEの進展、カーボンニュートラルの実現に向けて、ニーズの高まる市場を取り込み、1,150億円の売上を目指す

*1 CASE (Connected:コネクテッド、Autonomous:自動運転、Shared & Service:シェアリング/サービス、Electric:電動化)

*2 ICE: Internal Combustion Engine (内燃機関)

*3 旧日立化成の自動車・半導体分野

事業戦略:モビリティセグメント

市場における競争優位性

現在、モビリティ市場は大きな変化を迎えています。カーボンニュートラルなどの社会課題への対応を目的に、各国でのCO₂排出量目標値の設定・環境規制の強化により、電動車(EV)の拡大が進んでいます(ただしエコ燃料を使用する車両は対象外)。今後10年以内にEVは自動車全体の半数以上になると試算されています。当社はEVの中でも長期拡大が確実視される電気自動車(BEV)で事業を拡大していく予定です。

モビリティ事業ではCASE進展に伴う各ニーズをキードライバーとし、拡大する自動車市場のニーズを取り込むことで成長を図ります。そのためには、新たな技術ニーズへの対応が必要となります。当社は、軽量化や小型化、電動化に伴うバッテリー関連、熱・音・電磁波の制御などの材料や部品モジュール化などのソリューションを提供していきます。

具体策として、外装成形品では樹脂バックドアモジュールや樹脂発泡成形品において、軽量化やデザイン性に強いニーズが見込まれるセグメントをメインターゲットとし、既存顧客における採用モデル拡大や新規顧客開拓を進めます。複合成形品では主力製品である樹脂ギヤのトップシェアを維持しつつ、冷却器など今後電動化で要求が強まる各種熱マネジメント製品で新規顧客開拓を進めます。先端電池材料では、SPALFのさらなる品質向上やお客さまの開発ニーズを満たすサービスモデルの構築により、モバイル分野でのトップシェア獲得を目指します。

モビリティ事業の成長戦略



共創の事例

DX

MI (Materials Informatics) による開発力強化の推進

CASEの進展やカーボンニュートラルへの対応など、新たな技術ニーズや価値基準への対応に加えて開発期間の短縮が重要視されており、主要カーメーカー始めサプライヤーでは、車両全体から末端部品の機能や必要性能をモデル上でシミュレートするMBD*1の構築が本格化しています。MBD活用では、データベースから材料を選定しMIを用いてさまざまな材料の組み合わせを想定、CAE*2解析などと紐づけることでバーチャル上にて試作&評価を実施する開発スタイルが可能となります。例えばLIB用材料の特性向上技術開発として、お客さまと長年にわたり培ってきた知識と経験、ものづくりのノウハウを応用した当社MBD活用で実験回数を95%以上削減でき、開発所要期間を短縮しています。今後も産学官の研究機関とも連携して材料・製法開発を行い、地域施設での実証実験などを通じて社会に貢献する材料、部材、部品を引き続き提供していきます。



レゾナックが目指すMBD

*1 MBD: Model Based Development *2 CAE: Computer Aided Engineering